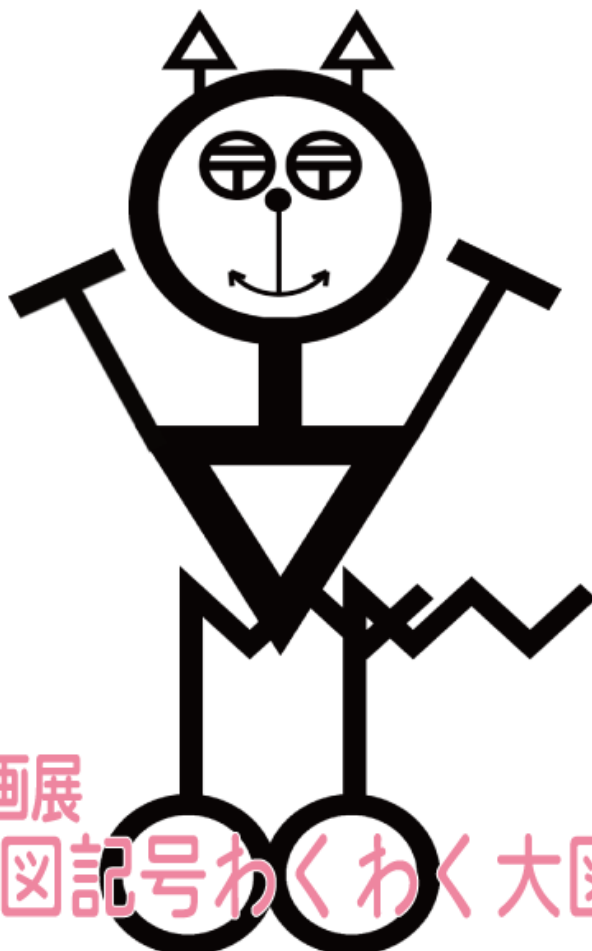




これはなんの地図記号でしょうか？



## 企画展 地図記号わくわく大図鑑 2022

キャラクターで使っている地図記号は、回転していたり、大きくしたり小さくしたり、のびしたりちぢめたりしています。答えは、最後のページに記載してあります。

### CONTENTS

1. 国土地理院長交代 ..... 2
2. 第51回 国土地理院報告会をハイブリッド開催 ..... 3
3. 「測量の日」関連行事を実施
  - 第25回中国地区測量技術講演会を開催 ..... 4
4. 企画展「地図記号わくわく大図鑑2022」を開催 ..... 5
5. 「自然災害伝承碑」のウェブ地図「地理院地図」公開数 ..... 6
6. 6月の報道発表・8月の主な行事予定 ..... 6

国土地理院は、新型コロナウイルス感染拡大防止をはかるため、制限を設けたイベント等の開催、テレワークの活用等による人との接触を低減する取り組みを実施しています。

6月28日付けで飛田<sup>とびた</sup> 幹男<sup>みきお</sup>国土地理院長が退任し、同日付けで高村<sup>たかむら</sup> 裕平<sup>ゆうへい</sup>国土交通大臣官房審議官が新たに院長に就任しました。

### 【就任のあいさつ】

本日付で国土地理院長を拝命した高村です。明治2年に設置された民部官庶務司戸籍地図掛より百五十年に及ぶ歴史ある国土地理院の長を務めるということで、責任の重さを深く噛み締めています。

国土地理院での勤務は初めてですが、子供の頃から地図が好きでありまして、最近では地理院地図をよく利用するなど、国土地理院で仕事ができることを大変嬉しく思っています。

私も国土地理院の一員としてできる限りの成果を上げるべく地理院のスローガンであるG（技術）・K（広報）・K（教育）に重きをおいて仕事を進めていきたいと思っています。

まず、「技術」については、まさに国土地理院の基盤であります。ICT技術の進展により、世界はめざましく変化しています。国土地理院が養ってきた技術を時代の変化に的確に対応させ、より発展させ、引き続き測量分野における技術革新の中心的役割を担っていきたいと思っています。

次に、「広報」については、国土地理院が行う事業が世の中に高く評価されることが必要です。以前、水管理・国土保全局で河川環境課長をしていた当時、TEC-FORCEが災害後に大いに活動しました。その姿を政権中枢に的確に伝えることによって、国土交通省が評価を得ることができたことを目の当たりにしていますので、私の責務として国土地理院でもしっかりと取り組んでいきます。



国土地理院長 高村 裕平

さらに、「教育」については、特に、防災教育の重要性が世の中に認識されてきています。関係府省とも連携して更に進めていきたいと思っています。

最後になりますが、国土地理院の高い技術力を国民の皆さまのために十分発揮できるよう、そしてそれが広く理解されるよう、私も全力で取り組んでいきます。

---

### プロフィール

昭和40年生 愛媛県出身

### 主な経歴

平成元年4月 建設省入省  
令和元年7月 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長  
令和3年4月 国土交通大臣官房審議官（水管理・国土保全局）  
令和4年6月 国土地理院長

---

（総務部）

## 第51回 国土地理院報告会をハイブリッド開催

6月1日に「第51回国土地理院報告会」を日経ホール（東京都千代田区）において開催し、6月8日から6月30日までの間、講演をオンデマンド配信いたしました。

国土地理院報告会は、測量・地図・地理空間情報について、国民の皆様理解を深めていただくことを目的に、昭和47年（1972年）から毎年開催しており、今回で51回目となります。報告会では国土地理院の取り組みや施策などをご紹介しますとともに、関連分野の有識者の方にご講演いただいております。

昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のためオンラインのみでの開催となりましたが、今回はハイブリッド開催として、3年ぶりに対面でも開催いたしました。

国土地理院では、国土を「測る」、「描く」、「守る」、「伝える」という4つの役割を通じ、Society5.0の実現に向けたデジタルツインの構築を進めています。また、今年3月に策定された第四期の「地理空間情報活用推進基本計画」を踏まえ、「高精度測位時代に不可欠な位置情報の共通基盤『国家座標』の推進」に取り組んでおります。本報告会では、「測る、描く、守る、伝える。未来へつなぐ、地図と測量。」をテーマに、電子基準点網の解析手法の発展、地殻変動の時系列解析、3次元点群データの整備等、基本計画に関連する国土地理院の最新の取り組みを中心に報告いたしました。

特別講演では、地理空間情報ライターえんどう ひろゆきの遠藤宏之さんに、「地理空間情報活用の動向～活用のコンテキストから考える～」と題して、測量・地図に関して、ジャーナリストの視点でご講演いただきました。

さらに、会場内には国土地理院の各種取り組みを紹介するパネルやパンフレットを展示しました。

前回に引き続きオンラインでも開催したこともあり、国内だけではなく、海外も含め、民間企業、研究関係、教育関係、行政関係や学生など幅広い分野から、多くの方々にご参加いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



講演の様子



パネル展示の様子

国土地理院職員による講演資料は、以下のページでご覧いただけます。関心のある方はぜひご覧ください。

<https://www.gsi.go.jp/REPORT/HAPPYYOU/main51.html>

来年も6月に開催を予定しております。詳細が決まりましたら国土地理院のホームページでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

（企画部）



## 「測量の日」関連行事を実施

### 第25回中国地区測量技術講演会を開催

6月27日に、「測量の日」中国地区連絡協議会（委員長、中国地方測量部長）主催による「第25回中国地区測量技術講演会」を広島県民文化センター（広島市）多目的ホールにおいて開催し、171名の方にご来場をいただきました。

中国地区測量技術講演会は、地理空間情報の利活用、新しい測量技術や測量に関するプロジェクトなど、産学官から広く紹介し、測量技術の普及・啓発を図ることを目的として平成8年（1996年）から開催しています。昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、本講演会の開催中止を余儀なくされました。

今年は定員を会場座席数の半数以下とし、「測量とi-Construction」をテーマに、将来期待される測量技術や地理空間情報の利活用が進む魅力あるこれからの測量業を展望する観点で、産学官から4名の講師の方に講演していただきました。

最初に、山口大学大学院創成科学研究科の長井正彦教授による「i-Constructionにおける宇宙利用技術のこれから」と題した特別講演では、膨大な衛星データのキャリブレーション手法、リモートセンシングの特徴を使ったAIで処理を自動化しこれらを災害対応に活かす取り組みについてお話ししていただきました。



長井教授の講演

株式会社荒谷建設コンサルタント計測情報部の下野由香講師からは、中国地方の安全を支えている測量、調査、設計の企業としての業務紹介のほか、企業のコンセプトや魅力を多方面から紹介していただき、これからの測量業に期待される次世代を担う人材育成の重要性をお話ししていただきました。

株式会社トプコンソキアポジショニングジャパンの山崎智之講師からは、測量機器・ソフ



下野由香氏の講演

トウェア企業の視点から、中小規模の現場でのi-Constructionの普及と推進について、具体事例を紹介していただき、測量・建設業の課題のひとつである労働力不足の中でも、ICTを活用することで生産性の向上に繋がること、それには「できることから始める」ことが大切であることをお話ししていただきました。

当院の企画部吉武勝宏専門調査官からは、国土地理院の取り組みや測量新技術に係るマニュアル整備、国家座標について説明し、i-Constructionにおける測量工程の重要性についてお話ししていただきました。



会場の様子

例年、協議会を構成する各機関から会場ロビーにパネルや模型などを展示するところを今年は「密」を回避するため展示を中止、また来場者の多くが測量関連企業に偏ってしまいましたが、3年ぶりの開催に関係者一同胸をなで下ろしたところです。

中国地方測量部では今後も、地理空間情報の活用推進、測量新技術の普及啓発のために本講演会を継続してまいります。

(中国地方測量部)

## 企画展「地図記号わくわく大図鑑2022」を開催

国土地理院「地図と測量の科学館」では、特別展示室において7月20日（水）から9月25日（日）まで、企画展「地図記号わくわく大図鑑2022」を開催します。ぜひ、ご家族連れでお越しいただき、夏休みの宿題や自由研究の題材にご活用ください。

国土地理院が刊行している地図には、いろいろな縮尺の地図があります。これらの地図には多くの地図記号が使われていて、縮尺ごとに使用する地図記号が決まっています。例えば2万5千分1地形図では、134種類もの地図記号が使われています。

地図記号は、地図上に地形や道路、建物、施設、土地利用などを表現するために定められた記号です。この地図記号を使うことで、

- 国土の典型的な地形や、特徴的な地形はどうなっているのか？
- 知りたい地点では平均海水面からの高さはどれくらいなのか？
- 知らない街の位置や地勢はどのようなものか？
- そこにあるのは何の建物なのか？

などの現地の様子をわかりやすく、統一した基準で表現することができます。

今回開催する企画展では、地図記号にフォーカスをあてて、

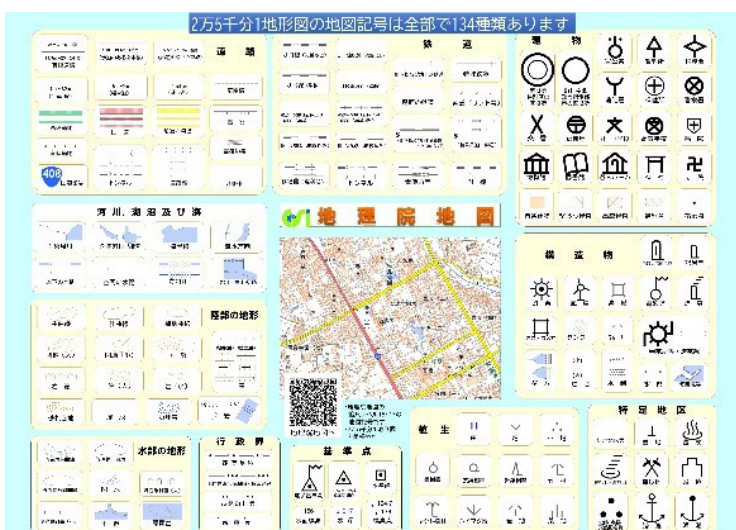
- どんな地図記号があるのか？
- どうしてこの地図記号になったのか？
- 昔の地図記号は現在と違うのか？
- 外国の地図記号はどうなっているのか？
- 外国人にも日本の地図記号は伝わるのか？

など地図記号の種類や由来、変遷やトピックスを、さまざまな地図や空中写真、現地写真や記号になった実物なども紹介して、楽しく学べる展示をします。

また、自分で考えて地図記号を描いたり、地図記号を組み合わせてキャラクターを作るなど、地図記号を使った創作コーナーを設けます。こちらにもぜひご参加いただき、楽しみながら地図記号を身近なものと感じてください。

この企画展を通じて、夏休みの児童生徒をはじめとした多くの方々に、地図や地理に対する関心と理解を深めていただくきっかけとなれば幸いです。企画展「地図記号わくわく大図鑑2022」

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/p09.html>



現在、当館はコロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で開館しています。詳細については「地図と測量の科学館」ページをご覧ください。

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/> QRコードからもアクセスできます。



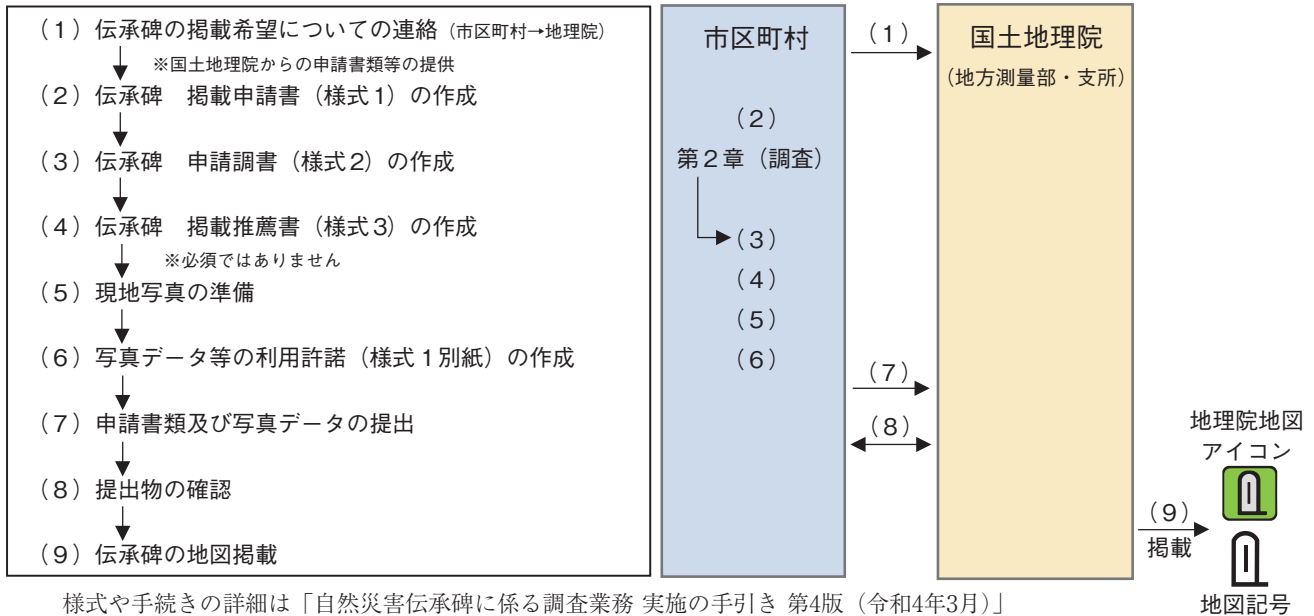
(総務部)



47	都道府県	415	市区町村	1402	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。  
 [市区町村の担当者の皆様へ] 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第4版 (令和4年3月)」  
<https://www.gsi.go.jp/common/000235746.pdf> をご覧ください。

6月の報道発表

8日	令和4年5月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
27日	先行公開！衛星画像から一目でわかる大地の動き	測地部

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2022年 報道発表資料  
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2022.html> をご覧ください。

8月の主な行事予定

7/20～ 9/25	企画展「地図記号わくわく大図鑑 2022」
8/29	第236回地震予知連絡会

行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止又は延期となる場合があります。

国土地理院広報は、  
 国土地理院ホームページ>広報誌>国土地理院広報  
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/> に掲載しています。



表紙の答え  
 裁判所、町村役場、郵便局、墓地、電波塔、漁港の  
 地図記号を組み合わせて作成しています。  
 参考：2万5千分1地形図 地図記号  
<https://www.gsi.go.jp/common/000236865.pdf>

発行 **国土交通省国土地理院**  
 Geospatial Information Authority of Japan  
 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番  
 TEL 029-864-6255  
 FAX 029-864-6441  
 連絡先：総務部広報広聴室  
 国土地理院ホームページ  
<https://www.gsi.go.jp/>